

報道関係 各位

2018年5月21日

株式会社日本レースプロモーション

5月26日(土)～27日(日)
2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 スポーツランド SUGO
開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、5月26日(土)～27日(日)の2日間、宮城県柴田郡 スポーツランド SUGO インターナショナルレーシングコース(1周: 3.704km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第3戦を開催いたします。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース 68周(251.88km)にて争われます。

前戦オートボリス大会の予選は快晴の中で行われ、平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)が、1分25秒937のタイムで自身初となる予選1位を獲得しました。翌日の決勝は、前日までの天候と一変し、風雨と雲による視界不良という悪天候に阻まれ、決勝レース開始直前に天候の回復が望めない為、中止の判断が下りました。そのため、ドライバーポイントランキングは、予選1位を獲得した平川が1ポイント加算するのみとなりました。

これまで9月に開催されていたスポーツランド SUGO だが、今年は5月の開催となり、「2スペックタイヤ制」で行われるレースは初となります。各チームともスポーツランド SUGO では、ソフトタイヤでの走行をしておらず、ソフトタイヤのデータ収集によるアドバンテージはなく横一線とも言えるため、各チームどの様なタイヤ戦略を立ててくるのか、金曜日の専有走行から注目です。

また、2016年、2017年と、関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が、2連勝しており、今回も、スポーツランド SUGO で初運用となる「2スペックタイヤ制」の攻略に成功して、3連勝を成し得るのかも大注目です。

なお、福住 仁嶺(チーム・ムゲン)は、第2戦オートボリス大会に続き、第3戦SUGO大会および第4戦富士大会を欠場します。これに代わり、ダニエル・ティクトゥム(※注)が、この2大会に出場します。また、ピエトロ・フィッティパルディ(ウオモ スノコ チーム ルマン)の欠場に伴い、第2戦オートボリス大会から出場しているトム・ディルマンは、引き続き今大会にも出場します。マカオグランプリ FIA F3 ワールドカップで優勝経験のあるダニエル・ティクトゥム、そしてスーパーフォーミュラ 2 戦目となるトム・ディルマンが「魔物が棲む」と言われるサーキットで、どのような走りを見せるのかこちらも目が離せません。

※注:ダニエル・ティクトゥム(Daniel Ticktum) チーム・ムゲン

1999年6月生まれの18歳。イギリス出身でRed Bull 育成ドライバー。昨年のマカオグランプリ FIA F3 ワールドカップで優勝しており、今季、FIA F3 ヨーロピアン選手権にモト・パークから参戦している。



オートボリス大会で予選1位を獲得した平川 亮(イトウチュウエネクス チーム インパル)

公式予選

Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。

Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。

Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

・セッションの間のインターバルは各10分

・ノックアウト方式の名称は、予選で好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

※Q1=ミディアムタイヤのみ使用可能。

※Q2、Q3=ソフトタイヤ、ミディアムタイヤの使用が可能。

決勝レース

68周 (1周:3.704km×68周=251.88km)

スポーツランドSUGOについて

第3戦が行われるスポーツランド SUGO は、約 70m の高低差に、中高速のコーナーがレイアウトされたサーキットです。コース前半のテクニカルなセクションを抜けると、ハイポイントコーナー付近を頂上に、バックストレッチは急激な下り坂。最終コーナーからホームストレートにかけて 10% の上り勾配を駆け上ります。全長もさほど長くないので、ドライバーにとっては息つく間もないハードなコースです。それ故に、アクシデントが発生しやすく、「SUGO には魔物が棲む」とも言われています。



2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第3戦 エントリーリスト

2018年5月15日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームスビーエムユーセルモインギング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県			
3	ニック・キャッシュ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	1993/10/13	日本/埼玉県			
7	トム・ディルマン Tom Dillmann	1989/ 4/ 6	フランス	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコチームルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
15	ダニエル・ティクトゥム Daniel Ticktum	1999/ 6/ 8	イギリス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	carrozzeria Team KCMG (カロツツェリア チーム ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インバル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1994/ 3/ 7	日本/広島県			
36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チームトムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	ジェームス・ロシター James Rossiter	1983/ 8/25	イギリス			
50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	1986/ 12/ 9	日本/東京都	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	本山 哲	HONDA HR-417E
64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台
(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	11	11	0	0	0	0	0	0
2	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	8	8	0	0	0	0	0	0
3	5	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	6	6	0	0	0	0	0	0
4	1	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	5	5	0	0	0	0	0	0
5	65	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	4	0	0	0	0	0	0
6	17	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	0	0	0	0	0	0
7	3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	2	2	0	0	0	0	0	0
8	36	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1	1	0	0	0	0	0	0
9	20	平川 亮 Ryo Hirakawa	1	0	1	0	0	0	0	0
10	4	山下 健太 Kenta Yamashita	0	0	0	0	0	0	0	0
11	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	0	0	0	0	0	0	0	0
12	37	J・ロシター James Rossiter	0	0	0	0	0	0	0	0
13	6	松下 信治 Nobuharu Matsushita	0	0	0	0	0	0	0	0
14	2	国本 雄資 Yuji Kunimoto	0	0	0	0	0	0	0	0
15	50	千代 勝正 Katsumasa Chiyo	0	0	0	0	0	0	0	0
16	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	0	0	0	0	0	0	0	0
17	7	ピエトロ・フィッティパルディ Pietro Fittipaldi	0	0	0	0	0	0	0	0
18	64	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	福住 仁頌 Nirei Fukuzumi	0	0	0	0	0	0	0	0
	15	阪口 晴南 Sena Sakaguchi	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	トム・ディルマン Tom Dillmann	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝 下線：予選1位

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2018/4/21-22	2018/5/12-13	2018/5/26-27	2018/7/7-8	2018/8/18-19	2018/9/8-9	2018/10/27-28
				SUZUKA Rd.1	AUTOPOLIS Rd.2	SUGO Rd.3	FUJI Rd.4	MOTEGI Rd.5	OKAYAMA Rd.6	SUZUKA Rd.7
1	15 16	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	10	10	0	0	0	0	0	0
2	19 20	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	8	8	0	0	0	0	0	0
3	5 6	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	6	6	0	0	0	0	0	0
4	1 2	JMS P.MU/CERUMO・INGING (ジェームス ピーエムユーセルモインギング)	5	5	0	0	0	0	0	0
5	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティエシーエス・ナカジマレーシング)	4	4	0	0	0	0	0	0
6	17	REAL RACING (リアルレーシング)	3	3	0	0	0	0	0	0
7	3 4	KONDO RACING (コンドーレーシング)	2	2	0	0	0	0	0	0
8	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	1	1	0	0	0	0	0	0
	7 8	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS (ウオモスノコ チーム ルマン)	0	0	0	0	0	0	0	0
	18	carrozzeria Team KCMG (カロツェリア チーム ケーシーエムジー)	0	0	0	0	0	0	0	0
	50	B-Max Racing team (ビーマックス・レーシング・チーム)	0	0	0	0	0	0	0	0

*表中ポイント数字の 太字：優勝

*チームポイント：各チーム（エンタラント）に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム（エンタラント）に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、予選1位のポイントは与えられない。

—開催概要—

- 大会名称 : 2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 スポーツランド SUGO
- 開催日程 : 2018年5月26日(土) 公式予選
2018年5月27日(日)決勝レース
- 開催サーキット : スポーツランド SUGO インターナショナルレーシングコース(1周 3.704km)
- 主催 : 株式会社菅生
菅生スポーツクラブ(SSC)
- 公認 : 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定 : 株式会社日本レースプロモーション(JRP)
- 後援 : 公益社団法人宮城県観光連盟
村田町
河北新報社
名取市
- 同日開催 : 全日本フォーミュラ3選手権 第3戦・第4戦
JAF菅生スーパーFJ選手権 第3戦
2018 N-ONE OWNER'S CUP Rd.6

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2018スーパーフォーミュラ第3戦 スポーツランドSUGO』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。ピエール北川による場内実況がサーキットの臨場感をそのまま伝え、ピットの緊迫した状況をレーシングドライバー 松田次生と、東(ひがし)美樹がレポートします。今大会は、解説者にモータージャーナリストの古賀敬介を迎え、鋭くまたわかりやすく解説をします。

○実況 : ピエール北川

○解説 : 古賀敬介(モータージャーナリスト)

○ピットリポーター : 松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間 : 2018年5月27日(日) 14:00～15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

SF14ラストイヤー、全戦2スペックタイヤ制など話題が豊富な2018シーズンのレースダイジェストをレギュラーコメンテーターの小林可夢偉とゲスト解説の松田次生がレースを分析。また、ゲストコメンテーターとして登場する現役ドライバーやチーム関係者、レース好きの著名人などと共にホットなニュースを深堀りします。

番組に華を添えるのは、進行を担当する本田朋子アナ。ナレーターは今年で番組3年目となる乃木坂46の樋口日奈が担当します。

《放送予定時間》

第3話 : 2018年 5月 20日(日) 26:00～26:55

2018年 5月 26日(土) 23:00～23:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

詳しくは jsports.co.jp をご参照ください。

第2戦 オートポリス

予選 2018年 5月26日(土) 13:10～(予定) J SPORTS 2 <生中継>

決勝 2018年 5月27日(日) 13:45～(予定) J SPORTS 2 <生中継>

【映像の配信】

■ Yahoo! GYAO!

大会終了14日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時は変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時は変更となる場合があります。詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」でご確認ください。

[superformulavideo-YouTube](https://www.youtube.com/user/superformulavideo)

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【海外配信/放送】

- motorsport.com (配信)
- motorsport.tv (放送)

【インターネット/SNS】

- オフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- 公式LiveTimingアプリ
i OS,Android 対応無料ライブタイミングアプリ「SUPERFORMULA」で検索
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル Twitter #sformula
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)
 - 大人:5,200円(シングル)
 - 大人:9,400円(ペア)
 - 大人:14,100円(トリプル:3名)
 - 大人:18,800円(グループ:4名)
 - 大人:4,200円(レディース:女性・1名)
 - ※中学生以下入場無料
- プレミアムスイート・レギュラー(2日通し券)
 - ペア(大人2名):51,400円
 - シングル(大人1名):27,300円
 - 子供(子供1名):15,500円
- パドッククラブパス(2日通し券)
 - 大人(1名):23,200円
 - 子供(1名):10,300円

レースチケットのご案内(<http://sportsland-sugo.co.jp/tickets/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション(<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントラント)、国内外19名(19台)のドライバーが転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

2018年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 21 ~ 22	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km
5 / 12 ~ 13	第2戦/オートボリス	ノックアウト	250 km
5 / 26 ~ 27	第3戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
7 / 7 ~ 8	第4戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 18 ~ 19	第5戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 8 ~ 9	第6戦/岡山国際サーキット	ノックアウト	250 km
10 / 27 ~ 28	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	300 km ※

※：レース距離は暫定。

2018年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1

※ 最終戦鈴鹿大会に限り、レースの勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

※ 最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチームが同一のポイントを得た場合、高得点を得た回数が多い順に順位を決定する。

●ルーキー・オブ・ザ・イヤー: 当該年度初参戦となるルーキードライバーが3名以上存在する場合、その中で年間獲得ポイント最上位の選手に贈られる。

●チームポイント: 各チーム(エントラント)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。

同一チーム(エントラント)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。

チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

3. シリーズ賞典

各レースでの入賞成績に応じて与えられるポイントの合算により、シリーズチャンピオンが決定。ドライバーとチームの2部門に全日本スーパーフォーミュラ選手権のタイトルが懸けられチャンピオン獲得者には下記の賞典が授与される。

- 年間チャンピオンチーム
 - ・経済産業大臣杯
- 年間チャンピオンドライバー
 - ・ドライバーズチャンピオンカップ
 - ・観光庁長官杯
 - ・自由民主党モータースポーツ振興議員連盟杯
- ルーキー・オブ・ザ・イヤー
 - ・トロフィー

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からも注目を集めるようになりました。
来シーズンは、新車両の「SF19」の導入が予定されておりますので、現行車両「SF14」のラストランの年であります。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。
このエンジンの特徴としては、「燃料リストリクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。
厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。
このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みで、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。
SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストリクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。
またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。

2018シーズンは全7戦において、「ソフトタイヤ」「ミディアムタイヤ」を使用する2スペックタイヤ制が導入されます。チーム戦略の多様性をもたらし、エキサイティングなレース展開が期待されます。